

陸奥記念館へ遺品寄贈



遺品を寄贈した堀江淑さん（右）と三女の由布淳さん（左）

9月18日、戦艦陸奥の副艦長を務めた堀江亥之吉さん（故人）のご遺族が、軍服や勲章などの遺品を町へ寄贈されました。

遺品は亥之吉さんの長女淑さんが保管していましたが、昨年体調を崩されたのを機に、「このまま管理できなくなつて、捨ててしまつては父に申し訳ない。」と寄贈先を探されてきました。

椎木町長は「保存状態もよく、大変貴重な資料ばかり。陸奥記念館で大切に保存します。」と寄贈に感謝しました。

体験型観光を推進します

9月12日、体験型観光フォーラムが開催されました。当日は体験観光を取り組んでいる方々の事例発表のあと、パネルディスカッションを行い、体験型観光について活発な意見が交わされました。また翌13日には、民泊を受け入れようとする方々

などを対象に、インストラクター研修会として、タコのかご網漁の実践研修が行われました。

町では周防大島の特性を活かした「体験型観光」を推進していきます。



タコのかご網漁の様子



パネルディスカッションで意見を述べる椎木町長（右側）

神楽 やまたのおろち上演



9月12日、町文化振興会久賀支部の主催により久賀総合センターで、上沼田神楽保存会（岩国市）が、「やまたのおろち」を上演しました。やまたのおろちは、頭が8つ、尾が8つの大蛇を須佐之男命（すさのおのみこと）が退治する神話です。上演の途中で大蛇が舞台から客席の方へ降りると、あまりの迫力に客席から「きゃー」と大きな喚声が上がりました。

土居地区海浜清掃ボランティアグループ 海上保安本部長から表彰



代表者の西本美雄さん

土居地区海浜清掃ボランティアグループが長年の海浜清掃ボランティア活動の功績をたたえ、第六管区海上保安本部長から、表彰状が授与されました。

昔きれいだつた土居地区の海岸をきれいにしようと、会の代表者である西本美雄さんが10年前から清掃活動を始めたもので、ボランティアの会員も、近所の方を中心に徐々に増えていったそうです。

西本さんは「近所のお孫さんなど、小さいお子さんも清掃を手伝ってくれることがあり、ボランティアの精神が育つてうれしい。表彰はボランティアグループ皆さんのおかげです。元気な限り清掃を続けていきたい。」と話されました。